みやぎ梅花

題字は曹洞宗宮城県宗務所梅花講長　三 宅 良 憲

宮城梅花　平成 26. 5. 20　発行　第47号

発行所　曹洞宗宮城県宗務所
〒981-3117
仙台市泉区市名坂字楢町169-4
TEL 022-218-3801 FAX 022-218-3803

平成25年度 特別講習会
「輪絡子 伝授式」

（２月５～６日
５頁に記事掲載）

御挨拶

宗務所梅花講長
三宅良憲

昨年の梅花流全国奉詠大会は、被災地で行われた意義のある大会で無事圓成しただけでなく、多くの財産を宮城県宗務所梅花講は戴いたと思っています。これを機会に新たな気持ちで梅花流詠讃歌に取り組んでいく必要があります。全国大会経験の上に立って、行事の内容を刷新していければと考えます。

例えば、県大会で既に終了している全国大会の課題曲を全員がお唱えする場面を設けるとか、運営面では教区交替制により梅花講員に役務の一部を担っていただき、奉詠の他でも達成感を味わえる場面を設けるとかして、活動の多様化を図れば今までとは違った県大会になるのではないかということです。

全国大会が終わった今、以前の行事運営方法に戻して済ますとか単なる練習や発表の場としての行事では、折角全国大会での盛り上がりが冷めていくのではないかと懸念されます。

また、講員の減少が見えつつある今、県大会に招待客をお迎えし、梅花の楽しさを知って頂く機会を作るとかの工夫があったらとも思います。

その他の行事にあっても、何らかの創造性を盛り込んでいってはと思うのです。アイデアを多くの講員に募って見るのも面白いのではないかとも思います。教区梅花講に在っても何らかの工夫によって活動の拡大化・多様化を図り、講師先生の講習以外の場にあって主体的に取り組む中から講員の獲得に努める活動があってもいいのではないか、などと途方もないことを考えています。

今まで宮城県の梅花を支えて戴いた巨星・齋藤典由正伝師範や功労者・城山博司元梅花主事を失った今、ご恩に報いるためにも新しい宮城県梅花講の出発をする時ではないかと考えます。

教区梅花講紹介
第一教区梅花講をふりかえり

太白区　鉤取寺講員
小田島　千万子

水曜日が、御詠歌のお稽古日です。午後一時から三時まで、週一回のお稽古の場は、講員同士お互いの一週間にあった事を報告しあう貴重なひと時ともなっています。

御詠歌を始め早、三十年。若かった自分もそれなりの年齢を重ね、教典を捲りながら、その曲を教わった時代のことを回想すると、あっという間の三十年だったと思えます。当時は、教区での指導は詠範先生中心で、遠方から師範先生がみえると、多くの講員が集い、研修に花を咲かせたものです。今は、三田村先生、都築先生を中心に、教区内は大変充実した若手新鋭の師範先生が、優しく指導をしていただいており、研修旅行等でも宴会余興が大変な盛り上がりでもあります。常に私達講員の立場になり、楽しい企画を立てていただき感謝致しております。おかげで教区内は、他講同士も大変仲良くお付き合いをさせていただいております。

三宝御和讃から始まり、見よう見真似でのお作法。緊張しての詠題、詠頭。特派講習会、県大会、検定、教区奉詠大会、移動研修旅行など・・・。御詠歌を通して培ったご縁の一つ一つが、大変貴重な私の人生の一ページでもあります。

特に、昨年の梅花流全国奉詠大会宮城大会は、記憶に残る圧巻なものでした。今まで参加した全国大会でも、あれほど感動した大会はありませんでした。御詠歌を通し全国の講員さんと心が通じ合った瞬間でもありました。

また、昨年の教区移動研修旅行では、会津の観音様を巡りながら、東山温泉で一泊の研修を福島の高森特派師範先生をお招きして行いました。とても有意義な研修となりました。

今までの教区研修会といえば、教区奉詠大会を行ったり、管内の師範先生をお呼びしての研修会を行ったりでしたが、数年前より二～三年に一度、泊りがけで講員同士の親睦も兼ねて一泊研修を行うようになり、「夜の宴会講習」も、講員一同とても楽しみにしています。

お寺に通い、仲間を通じて、梅花流のお唱えの「声」と「姿」と「心」が、み仏の道であることを信じ、折々にお話をいただく師範先生方の法話も興味深く、生きる糧となっています。残された余生を怠らず、誇らず、お互いが労り励まし合って、み仏の心を身近に感じながら、法悦に溢れる、同行同修の道を歩んで行きたいと思います。

平成23年度　特別講習会

「同行同修のつどい　～追悼・復興への祈り～」

・開催日　平成24年2月8日～9日

・場　所　秋保 ホテルニュー水戸屋

平成二十三年度は、東日本大震災によりほとんどの行事を中止せざるをえませんでしたが、皆様が一同に会する機会が必要であるとの思いから、講習会に加え標題の集会を開催いたしました。また、長らく当県梅花講をご指導いただいた懐かしい講師先生方がお越しになり、県内は二九〇名、県外からは九〇名となる大勢の師範・詠範・講員の皆様にご参加いただきました。

文頭のとおり、二日目の講習会に先立ち、初日は次のような特別企画を開催いたしました。

第一部は、大震災の物故者追悼法要と復興祈願法要を、詠讃歌奉詠とともに修行しました。

第二部は会場を移し、シンポジウム形式の「同行同修のつどい」とし、被災状況や支援状況、今後の問題点などが提起され、同じ志を持つ者同士、震災にて亡くなられた方々、被災された地域と皆様へ、想いを寄せながら、復興への祈りと同行同修の悦びを分かち合う、有意義なつどいとなりました。

最後になりましたが、開催にあたり、ご指導いただきました講師先生方をはじめ、企画・準備・運営等に、大変ご尽力いただきました県内師範様方には、誠に有り難うございました。遅ればせながら、深く御礼申し上げます。

平成25年度　特別講習会
併修「輪絡子伝授式」

・開催日　平成26年2月5日～6日
・場　所　秋保　ホテルニュー水戸屋

平成二十五年度は、全国大会後の特別講習会と云うことで、梅花流詠讃歌を通じてお釈迦様と両祖様の御教えに親しませていただく悦びと有難さを、改めて感じたく思い、平成17年度以来8年ぶりに、参加講員様へ輪絡子の伝授を講習会の前に行いました。

今回は、山形県第三宗務所様（山形県庄内地区）より、輪絡子をご支援・ご寄贈いただきましたので、文字通り輪絡子をお渡しすることができました。

季節がら、当日のキャンセルが相次ぎましたが、それでも二六〇名ほどの参加者がつどい、柴田弘一先生をはじめ県内外六名の講師先生方に、熱心かつ懇切丁寧なご指導を賜り、前年二十四年度に引き続き大盛況にて終了いたしました。

※特別講習会は、平成二十三年度以来諸事情から一泊二日に縮小して開催しており、多少窮屈な日程とはなっておりますが、今後も今回のような企画を取り入れた講習会にいたしたく考えております。また、皆様のご意見も賜りたく存じますので、宗務所梅花講までご連絡いただきますと幸いです。

日常の仏教語

「平常心」

（びょうじょうしん・へいじょうしん）

特派師範
清福寺 住職 長谷誠悦

毎年秋になると宮城県内の梅花流検定会があります。十分に研鑽（けんさん）を積み重ねて来たはずが、いざとなるとあがってしまい、普段通りのお唱えが出来ないまま検定を終えてしまう方がいます。

あがらないように「平常心で臨め」と言われ深呼吸を何回しても手は震え、目はかすみ、言われていることは耳に入らず、検定会場から出たときには記憶すら残っていませんでした。なんて言葉も聞いたことがあります。

私は落ち着こうと思わない方がいいと思っています。無理に緊張を解きほどこうとするよりも、緊張している自分をしっかりと受け入れることのほうが良いのではないでしょうか。適度の緊張感は時に必要なのです。

瑩山禅師様は「平常心是道」の説法を聞いてお悟りを開かれたといいます。お茶の時にはお茶を飲み、ご飯の時にはご飯をいただく。ただそれだけです。

自分の高鳴る鼓動を感じて下さい。外で鳥も鳴いていれば聞いてください。検定委員の先生のお顔をよく見てください。怖くないですから。結果を思い煩（わずら）わないでください。「平常心」それは全てがあるがままにしていればいいことなのです。

ただし、お稽古だけはしっかりとして来てくださいね。

みやぎ梅花歌壇

海浜の街の変貌鳥雲に　石崎　敏恵

給水を今日も待つ身に夏兆す　佐竹　高子

新涼や寝転んでみる曼荼羅図　太田　杖

鳴き砂や安否きずかふ盆供養　瀧川實樹男

新涼や和讃の鈴の響きあふ　佐竹イツ子

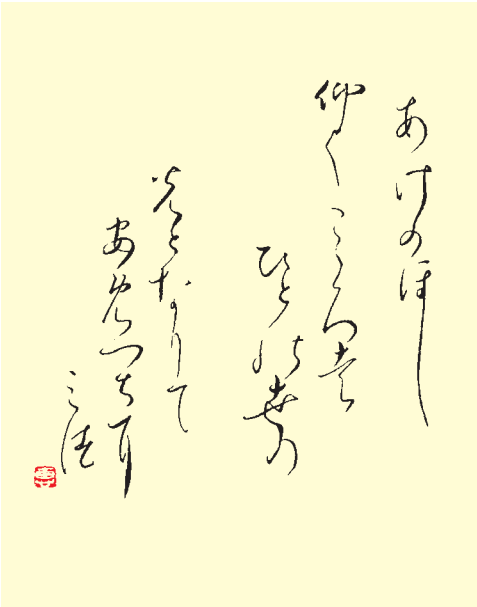
初日の出天地創造観るごとき　瀧川　澄江

婚姻の宛名書きする良夜かな　野田　孝子

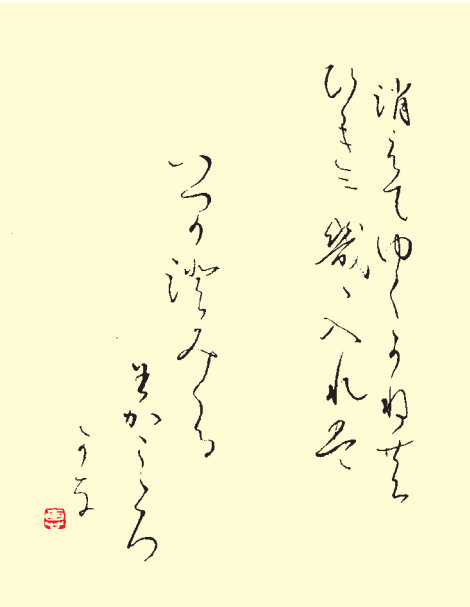
涌谷町　滝澤寺講

梅花書壇

明星



澄心



気仙沼市　補陀寺講
作・書　小山チエ子（恵翠）

訃報

齋藤典由（てんゆう）老師

平成二十五年九月十四日、栗原市金成　玉泉寺前住職　齋藤典由先生が世寿（享年）八十八才にて遷化（せんげ）（逝去）されました。

齋藤先生は、昭和二十九年十一月に梅花講に入講、特派師範並びに宗務庁専門委員をはじめ、県検定委員、県評議員、宗務所講師等の要職を歴任なされ、平成五年には正伝師範に補任されました。

宮城県のみならず、宗門梅花講の発展に御尽力され、多大な足跡を残されました。

その功績を讃えられ、昭和四十七年梅花流創立二十周年記念表彰、昭和五十七年同三十周年記念表彰、平成四年同四十周年記念表彰、平成十四年同五十周年記念表彰を受賞されました。

（以上宗務庁表彰のみ掲載）

梅花流の重鎮としてご活躍なされた先生に対し、謹んでご遷化を悼み哀悼の意を表します。

城山博司（はくし）老師

平成二十四年九月三日、大崎市松山眞源寺前住職　城山博司先生が世寿（享年）八十三才にて遷化（せんげ）（逝去）されました。

城山先生は、昭和二十八年七月に梅花講に入講、特派師範をはじめ、宗務所梅花主事、県検定委員、県評議員、宗務所講師等の要職を歴任なされ、昭和五十五年には一級師範に補任されました。

宮城県のみならず、宗門梅花講の発展に御尽力され、多大な足跡を残されました。

その功績を讃えられ、昭和四十七年梅花流創立二十周年記念表彰、昭和五十七年同三十周年記念表彰、平成四年同四十周年記念表彰、平成十四年同五十周年記念表彰を受賞されました。

（以上宗務庁表彰のみ掲載）

当県梅花講の重鎮としてご活躍なされた先生に対し、謹んでご遷化を悼み哀悼の意を表します。

梅花に学ぶ

写真で見る基本作法【紫雲（一仏両祖）奉詠について】

今回は「紫雲」（一仏両祖）を坐行で三題続けてお唱えする際の、曲間の所作について写真を用いてまとめてみました。

（写真－１）

（写真－２）

（写真－３）

１．詠題司の作法

①曲の最後の打鉦をした後、

・撞木をつきます。

・鈴は、最後の打鉦と同時に下げ始め、定位につきます。

（写真－１　参照）

②唱念をしないで、撞木をついたまま左手の掌を斜め上向きにして、教典下端の中程を人差し指と中指ではさみ、掌を伏せる形でくり開きます。

（写真－２・３　参照）

③片手合掌して、最後の打鉦から数えておおむね５拍目の拍頭で、詠題を唱えるよう心がけます。

２．詠頭司・詠衆の作法

①最後の打鉦をした撞木は、おおむね２拍間で上げて、唱念します。

②撞木をついて、鈴を置きます。

（写真－１　参照）

③左手で教典をくり開きます。

（写真－２・３　参照）

④片手合掌して、詠題挙唱中の唱念の後、詠頭司、詠衆の順に奉詠します。

なお、細かい点は、各師範・詠範に直接指導を受け、身につけて下さい。

特派講習会

日程は次のとおりです。担当師範は、四名です。

Aブロック

期日	教区	会場
六月十六日(月)	十八教区	全慶寺
十七日(火)	十七教区	長興寺
十八日(水)	二十教区	実相寺
十九日(木)	十教区	東渓寺
二十日(金)	九教区	富光寺

Bブロック

期日	教区	会場
六月十六日(月)	十六教区	補陀寺
十七日(火)十四・十五教区		香林寺
十八日(水)	十二教区	龍澤寺
十九日(木)	十三教区	照源寺
二十日(金)	十一教区	光明寺

Cブロック

期日	教区	会場
六月十六日(月)	二教区	江巖寺
十七日(火)二十一教区		満興寺
十八日(水)	三教区	龍澤寺
十九日(木)	七教区	昌源寺
二十日(金)	八教区	瑞雲寺

Dブロック

期日	教区	会場
六月十六日(月)	一教区	保壽寺
十七日(火)	六教区	自照院
十八日(水)	五教区	繁昌院
十九日(木)	十九教区	大雄寺
二十日(金)	四教区	東安寺

宗務所講習会

本年度は奇数教区で開催いたします。担当師範は、次のとおりです。

一教区	曳地徳宣	師範
三教区	髙橋信弘	師範
五教区	高橋恵一	師範
七教区	渡邉泰信	師範
九教区	橘智法	師範
十一教区	奥野秀典	師範
十三教区	齋藤完道	師範
十五教区	三田村秀範	師範
十七教区	石川素宏	師範
十九教区	永松隆賢	師範
二十一教区	藤澤智洋	師範

・受講料は、お一人 千円です。

宗務所検定会

本年は三会場で開催いたします。充分に研鑽して受検して下さい。

十月 十七 日(金) 石巻市 法山寺様
十月二十三日(木) 栗原市 雙林寺様
十月二十九日(水) 仙台市 林香院様

・いずれも午前九時受付です。
・検定料はお一人 四千円です。

合格おめでとうございます

平成二十三・二十四・二十五年度は、次の方々が宗務庁検定で合格されました。

益々のご活躍をお祈りいたします。

・平成二十三年度

一級詠範

妙伝院 青木初子
龍國寺 熊谷美智子

・平成二十四年度

一級詠範
桂雲寺　花山弘子
光明寺　伊藤陽子

二級詠範
円通院　花釜祥子
養松院　楡木百合子
光岳寺　岩崎利香

一級教範
真禅寺　武中富久子
興安寺　伊藤智重子
玄光庵　星　慶子
玄光庵　梅津ナカ子

二級教範
興安寺　菅野まさ子
玄光庵　宇都宮幸子
桂雲寺　相澤末子

・平成二十五年度

二級詠範
長谷寺　鈴木智美
祥雲寺　鮎田洋美

〔敬称略〕

特別講習会

期日　**三月四日（水）**
午前九時半　受付
三月五日（木）
十三時　解散
《一泊二日》

会場　秋保温泉「ホテルニュー水戸屋」
TEL　〇二二-三九八-二三〇一

受講料　・宿泊　**二万円**
・日帰り　**一万二千円**
（予定です。ともに含写真代）

定員　三〇〇名

申込　詳しくは、後日各講宛にご案内いたします。

〆切　平成二十七年二月十三日（必着）

講師　県外講師　四名の師範
県内講師　二名の師範

※　受講料・内容ともに、変更する場合があります。

編集後記

二十四・二十五年度は、みやぎ梅花を発行できませんでした。皆様にはご迷惑をお掛けいたしました。

さて、今年度は、震災以前の行事が、ほぼ復帰いたしました。しかしながら、被災された地域におかれましては、未だ困難な状況が続いています。

梅花流詠讃歌をとおして、み仏のお慈悲に包まれていただきたい。御詠歌が、こころの拠り所、お互いの鎹（かすがい）となっていただきたい。このように願っております。また、この力があるものと信じております。

行事に参加することが難しい事もあろうかと存じますが、ご都合がつきましたなら、どうぞ集まりにおいで下さい。また、入講されていない方もお誘いいただき、行事の参加、あるいはそれぞれの講にて御詠歌に親しんでいただければ幸いです。

訂正

「みやぎ梅花　平成25年度梅花流全国奉詠大会東日本大震災被災物故者三回忌法要　特集号」
26ページ「年月日」の段

誤	正
23	3
3	11

申し訳ございませんでした。

平成２６年度
梅花流宮城県奉詠大会

１．期　日　　平成２６年９月１２日（金）　午前９時受付　午後４時散会
２．会　場　　仙台市体育館　仙台市太白区富沢１－４－１
３．会　費　　お一人 金４，０００円
４．〆　切　　８月４日（宗務所必着）　　改めて、ご案内いたします
☆清興　：　「落語」を予定しております。
☆詳しい要項は各講宛ご案内いたします。　☆申込後の会費の返却はいたしません。

登壇奉詠課題曲

登檀順	教　区	課　題　曲	頁
1	養成所	三宝御和讃	１５
2	１０	追善供養御詠歌（妙 鐘）	２３１
3	１８	達磨大師御和讃（１・４番）	１１７
4	5	達磨大師御詠歌（廓 然）	１２１
5	⑦・８	観世音菩薩御和讃（１・３番）	９７
6	１３	高祖承陽大師道元禅師第一番御詠歌（梅 花）	５１
7	⑥・１９	太祖常済大師瑩山禅師讃仰御和讃（１・４番）	１５５
8	２・④	修証義御詠歌（伝 心）	２７
9	1	盂蘭盆会御和讃（１・３番）	２０９
１０	3	盂蘭盆会御詠歌（迎 火）	２１３
１１	１２	正行御和讃（１・３番）	２６５
１２	２１	釈尊花祭第一番御詠歌（歓 喜）	７３
１３	⑰・２０	開山忌御和讃（１・３番）	１８５
１４	⑭・１５・１６	開山忌御詠歌（真清水）	１８９
１５	１１	四摂法御和讃（１・４番）	３１
１６	9	同行御詠歌（道交）	２５１
１７	師　範・詠　範	大本山總持寺二祖峨山禅師讃仰御詠歌（永光） 大本山總持寺二祖峨山禅師讃仰御和讃（全曲） ※ 御和讃は、会場全員にて奉詠	１８３ １７９

☆　教典頁は、平成14年改訂第二版のものです。
☆　○印は、合同登壇される組の、詠題・詠頭 担当教区です。